

研究授業指導支援案

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成25年11月16日 4時間目	
学年：	3年1組 教科：英語科 授業者：久保 一至
単元名：Unit 5	
ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・分詞による修飾や間接疑問文について理解する。 ・自分で考え自分の意見を持ち、それを英語で伝えたり、他者の意見を理解する能力と姿勢を養う。 	
単元全体の流れ	
Starting out, Dialogでは分詞による修飾や間接疑問文の基本的な用法や意味について学び、理解する。本単元のReading for Communicationは1つのテーマについて数人での議論を取り上げた題材であるが、この題材による学習を通して、自分の意見を持ってそれを英語で伝えたり、他者の意見を理解して、賛成・反対意見を表明する等、コミュニケーションにおける基本的な能力と姿勢を身につける。	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ALTからすべて英語で提示される議題を理解し、質問や意見の発表を行う。 ・議題に対し、自分の意見を持つ。また話し合いを通じて他者の意見を聞き、理解した上で自分の意見との対比を行う。 	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input checked="" type="checkbox"/> 教員 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input checked="" type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の説明 <input type="checkbox"/> 生徒による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input checked="" type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input checked="" type="checkbox"/> 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
パワーポイント 電子辞書	
活用した機器	
<input checked="" type="checkbox"/> IWB <input checked="" type="checkbox"/> タブレットPC <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他（ ）	

1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
<p>①ALTから英語で提示される議題について理解する。</p> <p>②各個人が自分の意見を持つ。またその理由も考える。</p> <p>③グループで話し合い、自分の意見を発表する。また他者の意見を聞いて理解し、比較する。</p> <p>④もう一つの議題を聞き、②、③と同様の活動を行う。</p> <p>⑤クラスでどちらを選択したか、意見を聞き、2つの議題における違いを考える。</p>	<p>・生徒の理解の程度にあわせて補助説明を行う。IWBを活用した視覚的補助も行う。</p> <p>・議題についての疑問や、聞き取れなかったところは、すべて生徒に、ALTに英語で質問させることで対応する。</p> <p>・ある程度意見のまとまっている生徒やグループには、英語で意見の発表をさせる。活動に遅れのある生徒やグループは参考にする。</p> <p>・前半、後半の2つの議題では生徒の意見が異なることが予想される。同じような議題でなぜ意見が異なるのか、どこに違いがあるのかを考えさせる。</p>	IWB、タブレットPC

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

- ・課題の明確化
- ・生徒の成果の発表と比較の効率化

(2) 活用により期待される効果

- ・本活動では英語で課題を理解する必要があるが、ICTの視覚的補助により理解が容易になる。
- ・実物投影機を使うことで、生徒の成果を手書きのままクラス全体に見せることができる。また、容易に比較することができる。

3. 実践上の課題

- ・機器の操作性、不具合の頻発